

プロセス主建屋開口部の閉塞について

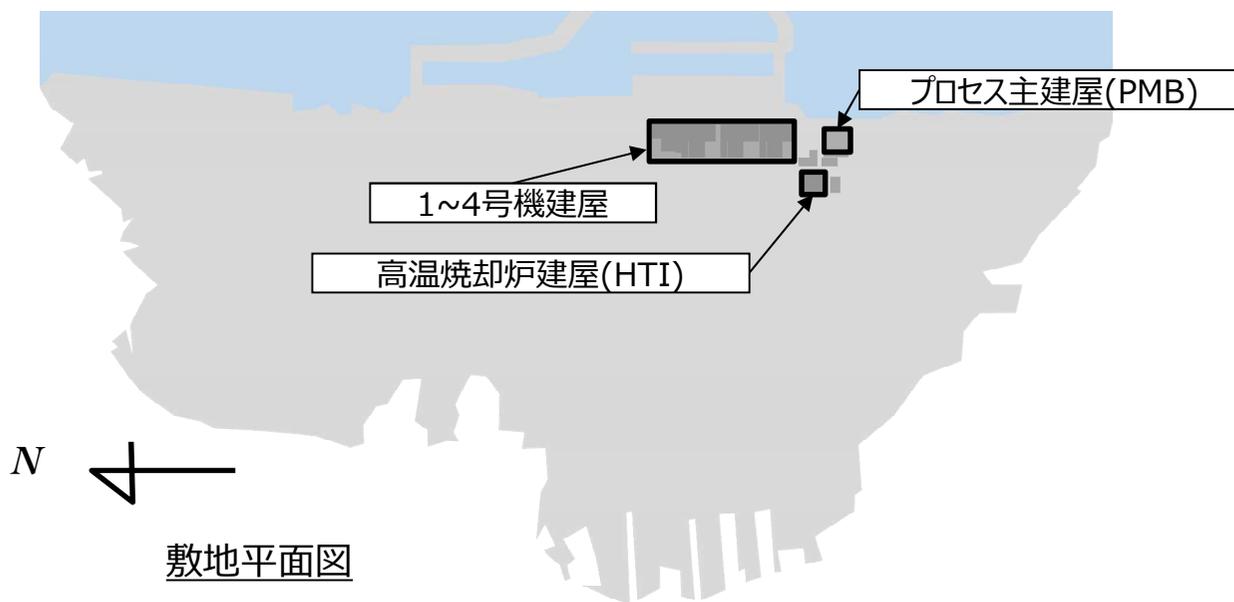
2021.8.26

TEPCO

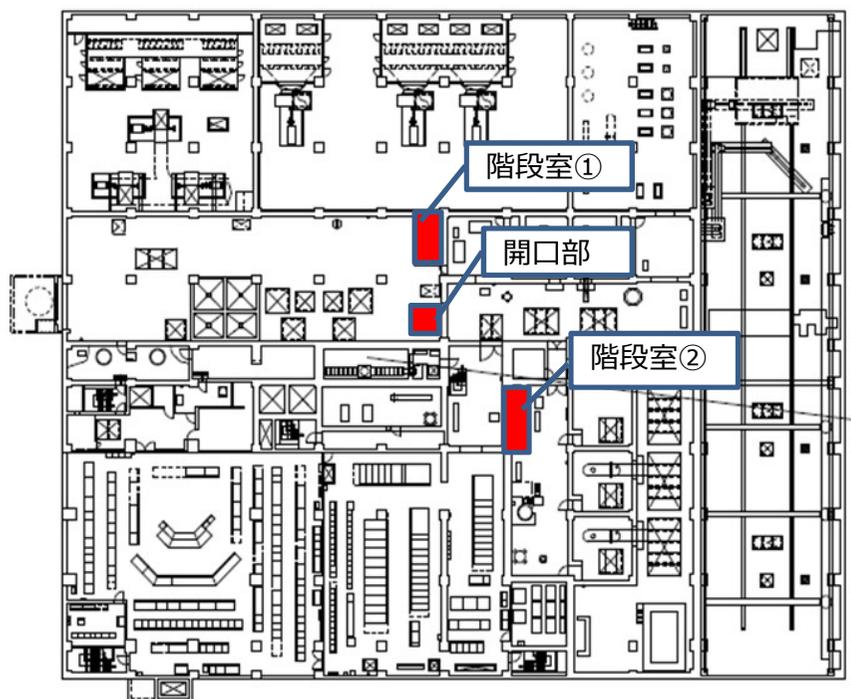
東京電力ホールディングス株式会社

1. プロセス主建屋開口部の閉塞について

- プロセス主建屋は、今後、建屋滞留水一時貯留タンクの設置やゼオライト土嚢回収作業等を進めて行く予定であり、地下階の建屋滞留水も処理し、床面露出状態を維持する予定。
- 建屋滞留水一時貯留タンク設置等の作業エリアは作業性を考慮し、主に4階エリアとする計画であるが、地下階と連通する開口部や階段室等が存在している。
- 今後、プロセス主建屋4階等での作業が本格化すること、地下階の床面が露出することを見据え、1~4号機同様、これら開口部養生の見直しを実施した。
- 今後、高温焼却炉建屋についても同様の開口部養生見直しを実施していく。



【参考】 PMB 4 階開口部の閉塞状況



	見直し前	見直し後
階段室①		
階段室②		
開口部		

【参考】プロセス主建屋におけるダスト測定結果

- プロセス主建屋開口部閉塞前後に実施したダストサンプリングの結果は、全面マスクの着用基準レベル（ $2.0E-4\text{Bq}/\text{cm}^3$ ）以下で推移している。今後も監視を継続していく。

※ 震災以降、プロセス主建屋は1階の開口部付近にてダストを採取していたが、水密扉を設置し、開口部が閉塞している状態になったことから、2019年2月よりプロセス主建屋4階大物搬入口においてダスト測定を行い、放射性物質の漏えいがないことを確認している。

